

森林の国 ブータン「奇跡の谷」

～トラ、ゾウ、サイ、サイチ、ウガ～息づくシャングリラ～

応援キャンペーン

南アジアの秘境、「ブータン」

中国とインドに挟まれた東ヒマラヤ山麓にある、自然豊かな国です。経済発展を重視する国民総生産(GNP)より、国民の精神的な幸福の度合いで国の豊かさをはかるGNH(国民総幸福)という独自の指標を持ち、大切にしています。また温室効果ガスの排出量より吸収量が上回っているという、カーボン・ニュートラルよりさらに進んだ、カーボン・ネガティブを唱える自然保護先進国です。

その秘密は、国土と政策にあります。九州くらいの国土面積のうち、72.5%が森林です。(世界の森林率の平均=約31%) その50%以上を国立保護区とし、自然環境を守っています。国土の多くは標高2000m以上、北部では標高7000mもある山々が連なる高山帯で、南部では標高200mほどと低くなり、亜熱帯の森が広がっています。この幅広い地理的特徴のため、そして手つかずの自然が多く残っているため、多種多様な生物が生息しています。

保護区は全部で10ヵ所あり、その全てが『緑の回廊』でつながれて、野生動物たちは自由に行き来できます。

南部のマナス川の両岸に広がる亜熱帯森林には、ベンガルトラ、アジアゾウ、インドサイのアジアを代表する3大哺乳類が生息しています。その他にも希少なゴールデンラングールやユキヒョウ、ジャコウジカ、さらにサイチョウなど多種の鳥類、固有の蝶などが生息し、ブータンはまさに生き物のシャングリラです。



Transboundary Manas Conservation Area = 国境を超えたマナス保全地域

ブータンの野生動物保護は、国の先進的な自然保護政策により着実な成果が生まれています。

しかし、インドからの侵入による密猟や森林伐採、野生動物と地域住人との軋轢、またインド・アッサム地方での治安の悪化の影響、さらに地球規模の温暖化の影響など課題も多くあります。

これらの問題を解決し希少な野生動物を守るために、2011年ブータン政府とインド政府はWWFの呼びかけに応え、TraMCA(Transboundary Manas Conservation Area=国境を超えたマナス保全地域)というランドスケープ構想を開始しました。国境を超えて10ヵ所の国立公園

や野生生物保護区をコリドーでつなぎ、ひとつの大きな保護区として長期的な視点で保全しようとする試みです。自然環境・野生動物の生態系を守り、地域住民が豊かに安心してくらせるように様々な面からアプローチしています。

ブータン側には、ロイヤル・マナス国立公園を中心に、西にフィブソ野生動物保護区、東にジョモツアンカ野生動物保護区の3つの保護区、およびこの地域をつなぐコリドーが設定されています。ロイヤル・マナス国立公園は、ブータン国内でもっとも古い国立公園です。生物多様性の宝庫であり、希少な動植物が多く生息しています。

UAPACAA国際保全パートナーズの行なっているブータンの支援活動

大型哺乳類の保護

① 生息地のアセスメント

個体の分布と主な利用地域などを調べ、客観的に評価・分析し、解決しなければならない問題を把握します。

② 森林・草原・水飲み場・塩舐め場の管理

私たちと同様に、野生動物にもミネラルが必要です。ゾウは川の近くなど、ミネラル豊富な場所を見つけ、塩分を含む土を舐めます。その場所の管理や、人が科学的根拠のない草原の火入れをするのを止めたりします。

③ 人とアジアゾウの共存に向けたアセスメント

人口が増え、耕作地のために森が切り開かれると、野生動物と人間の暮らしとの距離が縮まります。すると動物たちは畑に入って農作物を荒らすようになりました。地域社会で起こるこうした問題を、調べて把握します。

④ 人とアジアゾウの軋轢に対応するための人材育成

ブータンの南部では農業が盛んで、特に人とゾウの軋轢が起こっています。これに対応するための人材育成と、軋轢を回避するための技術支援などを行っています。

⑤ 違法野生動物取引監視(ゾウ)のためのSMARTパトロール導入とレンジャーの訓練

インド側から国境を超えてやってくる密猟者から野生動物を守るために、レンジャーの役目はとても大切です。銃を持っている密猟者や、野生動物との遭遇でレンジャーは命の危険と隣り合わせ、さらに装備・訓練も不足しています。SMARTシステムの導入で、動物の痕跡や密猟の発生場所を記録し、効率的にパトロールすることが可能になりました。このシステムの充実と、使用するレンジャーや地元の人々への訓練が必要です。

淡水系保全

① 水源域保全のためのコミュニティによるマネジメント、在来種保護のための植林、家畜の放牧と森林火災の抑制

多くの生き物の命を支えている重要な水源を確保することが生態系機能を保つために必要です。在来種の生息地回復のため植林を行ったり、家畜の放牧や森林火災による草原や森林の減少を防ぐために、地域住民と連携していきます。

② 1パイロットエリアにて雨水利用の設備の設置と訓練

地下に浸透した雨水が蓄えられ、河川などの水量を調節する技術を使って、干上がってしまった池などの水源域の生態系を回復させるために、雨水利用の設備の設置と、訓練を行います。

③ 水源域保全の政策提言および廃棄物管理における人材育成及び研修の実施

急速な社会経済の発展、都市化、人口の増加による水質汚染や、水不足は水域の生物多様性だけではなく、人間の健康や衛生面への影響も懸念されています。危機的状況にある淡水生態系の保全と、流域に暮らす人々にとっても有益な淡水系サービスの確立を目指した政策提言を行います。

ブータンの支援活動では、このように現状を調べて把握し、問題解決に向けた取り組みを行なっています。中でも第一線に立つレンジャーの訓練、SMARTシステムの強化はとても重要です。

